



「おおきなかぶ」

佐藤忠良／画 A・トルストイ／再話
うちだりさこ／訳 福音館書店 E/サ

おじいさんが植えたかぶが、あまりに大きくなって一人ではぬけません。そこで家族を順番に呼び総動員で、やっとかぶはぬけました。リズムのある掛け声や簡潔な文章の繰り返し、はっきりとした動きのある絵が楽しくなります。



「ねずみのいえさがし」

(ねずみのほん1)
ヘレン・ピアス／作 松岡享子／訳
童話屋 E/ピ

ねずみの家さがしは難しい。でもねずみは、どうしても家を見つけないのです。身近にある物をうまく

組み合わせ、文章にあった場面を作りあげている写真絵本です。
2巻は「ねずみのともだちさがし」、3巻は「よかったねねずみさん」。



「かばくん」

中谷千代子／絵 岸田衿子／作
福音館書店 E/ナ

日曜日の動物園、かばくん親子が主人公です。かばくん親子のそっくり同じしぐさをする姿はほほえましく、詩的なリズムのある文章と淡い色彩のやさしさにあふれた絵本です。

読み聞かせおすすめ絵本

3, 4才ぐらいから

●3, 4才の頃から、短いストーリーの絵本を楽しめるようになります。また、リズムのある文章、繰り返しのあるお話が喜ばれます。

♪ふれあいのある絵本の読み聞かせで、楽しい時を過ごしましょう！

八千代市立

大和田図書館 482-3240
八千代台図書館 482-0912
勝田台図書館 484-4946
緑が丘図書館 489-4946



「めのまどあけろ」

長新太／絵 谷川俊太郎／文
福音館書店 E/チ

子どもの身近に起こる出来事や生き物、自然を題材にして、子どもの五感に響く言葉でつづっています。リズムよく歌うように読むと楽しい詩の絵本です。

「おやすみなさいコッコさん」

片山健/作・絵 福音館書店 E/カ



夜。皆が眠っています。起きているのはお月さまとたった一人コッコさんです。眠っている身近な自然や動物たちと対比しながら、繰り返される「コッコは、ねむらないもん」のリフレインが子どもの共感を誘います。

「ガンピーさんのふなあそび」

ジョン・バーニングム/作
みつよしなつや/訳 ほるぷ出版 E/バ



ガンピーさんが船に乗って出かけると、子どもたち、うさぎ、ねこ、いぬたちが次々と「いっしょにつれてって」と言います。ガンピーさんは乗せてあげますが、ガンピーさんが「やってはいけない」と言ったことがすべて起こります。そこで、けんかが始まり大騒動です。

「とんとんとめてくださいな」

こいでやすこ/絵 こいでたん/文
福音館書店 E/コ



森にハイキングに出かけた三匹のねずみが、道に迷ってたどり着いた家には、誰もいません。泊まることにして寝ようとする「とんとんとめてくださいな」とつぎつぎ誰かが戸をたたきます。

「ちいさなねこ」

横内襄/作 石井桃子/作
福音館書店 E/ヨ



ちいさなねこがひとりで家から飛び出しました。子どもに捕まりそうになったり、車にひかれそうになります。幼い子はちいさなねこの身になってハラハラドキドキ物語を体験することでしょう。

「せきたんやのくまさん」



「せきたんやのくまさん」

フィービ・ウォージントン/作・絵
セルビ・ウォージントン/作・絵
いしいももこ/訳 福音館書店 E/ウ

たった一人で住んでいるせきたんやのくまさんの、一日の生活が描かれています。馬車の走る音や石炭をおろす音、お金の数え方などの擬音も、幼い子の興味をそそります。シリーズがあります。

「だるまちゃんとてんぐちゃん」

加古里子/作・絵
福音館書店 E/カ



だるまちゃんは、てんぐちゃんの持っているものをなんでも欲しがり、お父さんにねだります。お父さんは、こんなものかなと考えてたくさん揃えますが、ちょっと違うのです。幼い子は、何でも同じ物を欲しがるだるまちゃんと自分を重ねて楽しめます。



「ぼく、お月さまとはなしたよ」

フランク・アッシュ/絵・文
山口文生/訳 評論社 E/A

クマくんは、ある夜お月さまに誕生日の贈り物をあげたいと思い、お月さまに、話しかけますが返事がありません。「遠いから聞こえないのかな」と思いお月さまにもっと近づけるように山へ出かけていきます。



「おおかみと七匹のこやぎ」(グリム童話)

フェリクス・ホフマン/絵
せたていじ/訳 福音館書店 E/ホ

お母さんやぎが出かけている間に、おおかみがお母さんのふりをしてやって来て、六匹のこやぎを飲み込んでしまいます。難を逃れた一番末のこやぎとお母さんは、兄弟を助け出し、皆でおおかみをやっつけてしまいます。



「おだんごぼん」(ロシア民話)

わきたかず/絵 せたていじ/訳
福音館書店 E/W

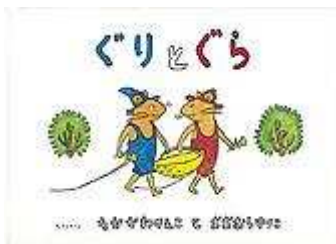
おばあさんが、こしらえたおだんごぼんがころころ転がって逃げ出して、次々出会う動物たちからも逃げ出します。おだんごぼんと動物たちのリズムある歌や問答の繰り返しが楽しい絵本です。



「ちびゴリラのちびちび」

ルース・ボーンスタイン/作 いわたみみ/訳
ほるぷ出版 E/ポ

ちいさなかわいいゴリラのちびちびは、お父さん、お母さんをはじめ森の動物達に愛されています。だんだんちびちびが大きくなってきました。でもやっぱり、皆はちびちびが大好きです。変わらない森の皆のちびちびに対する愛情に、子どもたちはホッとします。



「ぐりとぐら」

おおむら(山脇)ゆりこ/絵
なかがわりえこ/文 福音館書店 E/ヤ

かわいい二匹のねずみが主人公です。ぼくらの名前はぐりとぐら、この世で一番好きなのは、お料理すること食べること、ぐりぐらぐりぐらと繰り返すリズムのある歌と大きなカステラは、子ども達が大好きです。長く読み継がれている絵本で、シリーズがあります。



「しんせつなともだち」

村山知義/絵 方軼羣/作
君島久子/訳 福音館書店 E/M

寒い雪のふる季節、食べ物を探しに出たうさぎは、二つ見つけたかぶの一つを友だちに持って行きました。友だち思いの動物たちは、贈られた食べ物を次々友だちの所へ持っていきます。動物たちの素朴な暖かい気持ちが伝わってきます。



「こすずめのぼうけん」

堀内誠一／画

ルース・エインズワース／作

石井桃子／訳 福音館書店 E/ハ

お母さんから初めて飛び方を習ったこすずめは、巣から飛び立ちますが途中で疲れてしまいました。休ませてもらおうと他の鳥の巣を訪れますが、仲間ではないと言われ休ませてもらえません。イギリスの田園風景をもとにした美しい絵本です。



「ティッチ」

パット・ハッチンス／作・絵

石井桃子／訳 福音館書店 E/ハ

末っ子のティッチが持っている物は、お兄さんやお姉さんのものと比べると、いつも小さいものばかりでかありません。ところがティッチのちいさなたねが鉢の中で芽を出して、どんどん大きくなっていきました。



「三匹のやぎのからがらどん」(北歐民話)

マーシャ・ブラウン／絵

せたていじ／訳 福音館書店 E/ブ

名前はどれもがらがらどんという三匹のやぎが、山の草場へ行こうとしますが、上る途中の谷川の橋の下には、気味の悪いトロールがいます。三回繰り返しのやぎの登場、やぎが橋を渡る時の音の響き、やぎとトロールのセリフのリズム良さなど、昔話の定番として楽しめる絵本です。3、4歳児ではトロールを怖がる場合があります。



「ちいさなヒッポ」

マーシャ・ブラウン／作 うちだりさこ／訳

偕成社 E/ブ

ヒッポは、お母さんから一番大事なカバの言葉を習うようになりました。ひとりの時、ワニに襲われますが、大事な言葉で叫ぶことが出来たので、お母さんが助けに来てくれます。幼い子の冒険心といつでも子どもを見守っているお母さんの愛情を感じる絵本です。

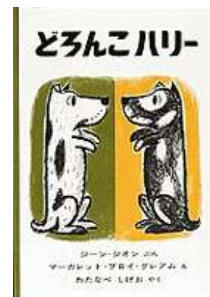


「もりのなか」

マリー・ホール・エッツ／文・絵

まさき るりこ／訳 福音館書店 E/エ

ぼくが森へ散歩に出かけるとライオンやぞうほか動物達がつぎつぎ現れ、ついてきて、皆でたくさん楽しい遊びをします。白黒の絵は柔らかく暖かみがあり、動物たちの表情やしぐさはいきいきとしています。ぼくが帰る時なくなった動物たちは、本当に森の奥に隠れているようです。



「どろんこハリー」

マーガレット・ブロイ・グレアム／絵

ジーン・ジョン／文 わたなべしげお／訳

福音館書店 E/ク

お風呂の大嫌いな犬のハリーは、ある日、お風呂にお湯を入れる音が聞こえてくると逃げ出して、遊んで真っ黒になって帰ってきました。でも家族は誰もハリーだとは、わかってくれません。そこで、ハリーは芸をして、一生懸命ハリーだとわかってもらおうとします。